

目 次

序：国際規範の競合と調和

第 I 部 国際社会と多文化共生

第 1 章 複合レジームとしての国内避難民問題

はじめに	3
1 理論的視角——複合レジーム	5
2 IDP 保護規範の形成と伝播——指導原則の成立・普及過程	9
おわりに——「多文化共生社会」に対する示唆	18

第 2 章 「企業の社会的責任」規範と多文化共生

◎企業評価メカニズムによる「共生」の模索	
はじめに	22
1 「企業の社会的責任（CSR）」	23
2 社会的責任に対する国際規範の提示	28
3 企業評価としての規範遵守・促進	33
4 規範遵守のメカニズム	38
おわりに	41

第 3 章 ユネスコの遺産プログラムに見る

多文化共生の模索	43
はじめに	43
1 遺産規範の形成	45
2 遺産規範への批判と修正	47
3 遺産規範への新たな挑戦——「世界の記憶」をめぐる論争	51
4 「南京虐殺文書」の一覧登録と政治問題化	53
おわりに	55

第4章 国際衛生システムと多文化共生——永田 尚見 58

はじめに	58
1 国際衛生と文化	58
2 国際衛生システムの戦略	60
3 国際衛生システムにおけるアクターの行動	65
4 国際衛生システムの各国への影響	69
おわりに	
——国際衛生システムの文化的意味と多文化共生の可能性	73

第Ⅱ部 対外政策と多文化共生

第5章 援助と規範——宇田川 光弘 79

◎日本の開発援助政策と「人間の安全保障」

はじめに	79
1 援助と規範	80
2 開発援助と人間の安全保障	83
3 日本と「人間の安全保障」	
——90年代の誕生と21世紀への継続	86
4 日本の「人間の安全保障」の評価	90
おわりに	94

第6章 「地域主義（リージョナリズム）」推進における 域外主要国の役割——芦澤 久仁子 97

◎日本の中央アジア外交を事例にして

はじめに	97
1 国際関係論における「地域主義」と中央アジア	98
2 日本の「中央アジア+日本」外交——その成立の背景と根拠	102
3 日本の「中央アジア+日本」外交のこれまでの実績評価	106
おわりに	111

第7章 非国家アクターによるパラディプロマシーと規範

礪波 亜希 114

◎北極域に対する北海道の取り組みを例に

はじめに——変わりゆく北極	114
1 北極域ガバナンス	116
2 パラディプロマシーと規範	120
3 分析モデル	121
4 北海道と北極域	124
おわりに——北海道の北極域に対するパラディプロマシー	128

第8章 米国大統領と宗教ロビーの歴史的考察

松本 佐保 131

◎宗教にみる包括性と排他性

はじめに	131
1 宗教票が大統領選挙で重視されるようになった過程	134
2 レーガン+ブッシュ・シニア80選挙委員会	136
3 レーガン選挙のカトリック票集め	143
おわりに	
——トランプ政権下のキリスト教団体の排他性と包括性の考察 ...	144

第Ⅲ部

人権規範と日本の多文化共生課題

第9章 歴史認識問題の人権規範化——大賀 哲 153

◎慰安婦問題の形成・受容・反動の過程

はじめに	153
1 歴史認識／慰安婦の政治問題化	155
2 国際規範形成としての慰安婦問題	161
3 慰安婦問題の規範形成過程	168
おわりに	175

第10章 1990年代の慰安婦問題をめぐる
メディア・フレームの競合 ————— 三谷 文栄 177

はじめに	177
1 慰安婦問題とは	179
2 慰安婦問題をめぐるメディア言説	183
3 日本社会における人権問題の捉え方	190
おわりに	192

第11章 国際人権の内面化 ————— 波多野 綾子 195

◎日本における反レイシズム運動とヘイトスピーチ解消法を事例にして

はじめに	195
1 ヘイトスピーチに関する国際法と国内法	199
2 司法における国際人権法・規範の内面化	206
3 政策・立法過程における国際人権法・規範の内面化	209
4 市民社会における人権規範の内面化	211
おわりに	215

第12章 日本における子どもへの性的搾取をめぐる
立法過程の検討 ————— 大森 佐和 221

はじめに	221
1 子どもへの性的搾取をめぐる国際規範	222
2 1999年の児童買春・児童ポルノ禁止法制定の立法過程と規範	223
3 児童買春・児童ポルノ禁止法改正過程と規範	227
おわりに	234

あとがきに代えて

参考文献

索引